



ちんてき問答

45
1276
特



古今事紀問答

活板

完

子
小
說



15
1276

8

ころ見や、月此さうひるる日福成りことにて
とらいさこちしるりたうと成き初いとまほひく
とんたんとりふりまさてんちく成を月としく
うつて月成國とす

一 男同云むえい山をさき人のひくき終ひ也
老僧答ていしく成やまハ人日うみ十代の成
門くもんび天王乃成剛あんややく元年までん
きう大昨乃たうりのてんうハ山成う月さきたり
言程りしふハ十六まで三ふんう乃さ也一なるま
ゆりたる人を十懸五きやくれ成を成はるし
さうふとす

一 男同云言飛山ハたれ人れひくき終ひ也

老僧答云人王み十二代の成りとさうの天王の成
時さうやうスし此成ひく成いぬいとそ門乃さの
わんをさうして四十九のひく、まうやう百年
のさうあねんさう三まの成あさり是ふり三國
ふさう此まのちとす

一 男同云言のヒ大さる誰人のひらささうの
いや 老僧答云七ヶさるのひくまんいめんくさ
はるくんしを中せはまはくさ成さふらふ七六
ささくは七仏のさひさうなりしんらんさう
のくさう月さきたり

一 男同云さうりまのさうしやてさうしたき人乃甲
終ひ也 老僧こさるくしをさうさやさなを

うさらくせんののやくえん乃ら終りてありーのま
とくれりてきてちやうくう上人乃ひらふ終ひこ
いせ月乃くまんをんしおしおしーまーいなり

一 地やこらふて云我てうを三十三ヶ國ゆへあり
流らとつ乃代は六十の國は五つをそ作そ
老僧若云びうー乃うとよりん人まててりよ
乃うハ日本ハ日月乃三十三の國なりあしりく小
國よりてう仏ほうをひあめんやと中てのるり
りり其のち仁王吹二代此後門よりゆい天正此流
と此六十六の國ふりくれくいさ家やとふ五葉内
ふくあくハ五てんらくとるうをまんとうハの國
とたのさううい乃ハようとるうを満た七の玉

ハ天神七といとてこらるなんういさう六のあ
ハふくくこれ六もんをんを明こらう九のうい
こくううい九五たまんたら減まねつり中
あくま大ーやうんとるうをやくろくさう七か
あくハくハこ七佛とるうをあま日本なり

一 男の云仏前は二王うとてつ流こりうるり
ゆる作や 老僧若云二王うとて中ハ地大目如系
有りもうこハちやのうこらまりこれに仏法を
まよりてあくま張ういらきんかたあり二王う
と身んーいよあまららとふき死あうん二川を
るうに有り

一 男同云釈教は鳥井代へるなりつららゆるい

曰 老僧こゝへて云より井の二こゝらに生れ
としふゆへ事一町のこきゆ人ありまを内せと成れ
下甲よりまをさやせと成れ上下よりおまへりしこと
と成れぬ物なりと成れしとて又生ゆへなるり
まんて成きりふむなり又まのこきとてまのこき
をうすせんあんの人多きい得ぬつして仏果る
つこ成るりほへ十界成るり

一 男善云うこけん字と用ひる西遊記に法るり
包くいや 老僧善云とれうこき字より三十一字
乃物也是を二十八志ゆくと日月なり乃之なるり
とる人てよびるりほへぬれ五りい五りぬ来也
川さの十二字を十二ぬんえんなりつふ乃七字ハ

くんこ七仏るりほへ乃七字天部七代とてこと
ほへれ人し志やをうんより一ふふい前より出世
せられしこゝとていふ人のほへりしめたる
るりむらそのよあを成るりほへりしとてよ
くよめい仏神もあふしとて其方を成るりしとて
まのうこきひりしとてせうと部のほへりしとて
そろふまこと乃みちりしとていふ

いれられとてをりしとてまをらん
せんくまうしほよらひ乃成るり
こつりけしこのりれあまのつてぬまうり
をくまをさはなれりしとて
又つり見ふきぬくまのまうりてめと成るり

田主人とてゆわくふ月此さうらわりのもれしうま
ま忍こ一も也いめり

いしへ此ふもやうのうも乃らんやうて

月れさをももいしうんそのあき

とよのり始こんきん此西をんつういさく

りしうり色坊りふさうはら新あれ

所きのさうりをゆわくうきとよと終ふ又

こつたう大昨とさのむろ川は西夜あり

清うた

かつやうのむろつや死くてわがすめえ

うかたなうう終うしぬまを

しよ見終ふまうさうらのきうあうししハ清ん

あいのちきをせけまを一紙一毛と持ゆ人さひり
一人はあひて一句のくしうり

をみれし大志のまもるうらとひり

大師此はけけり

わごまうこのやまこゆさこそと清あたまふ

まやう系上人此清あり

あくのり初りのゆけ此り乃あはも

ちう福さしうのびまきさうの思ん

くれしうく乃らしきらんをこくくうん

五字六字のまやうううハ万あよやうあう

あま

一 男曰云らそなれ人此よりめ孫ひいや
老僧答云てんらくのて川里んまうの時こうそん
るう孫とて二人の長トあり一う大わくの長トま
重たうへちあり一とてたぐ見孫ふ耐まをうふ
流門の流ゆはふゆとゆ川ししたる本一があつけ
七尺ふすましそえたもゆ一三んをんふんまき
なれを七ち也の流ら孫わうこしてしんけうらう
あう矢まてつてこり乃るるり玄程り矢んさけ
さう、まうまいゆまい七ちやく五可びのえのあり
まんたんるをく重うていのはとまひあまひい也
又日代もを仁ま十五代のみしとんまうくまう
さういあくふいられは孫と孫くそのゆまのまは

わうてふぞん乃開字佐北まういんとう聖うあり
くどあふせ孫ひてらりあのみしこひあまりていせ
一 男曰てまこまやうきまころくなんこいて
くん乃う人れあうひまのりうらあいや 老僧
答云あは十ういとるうもくんま二ちやく二す也
さうまきまこことるまう九代のりく老ハんよう
乃ほしし流まはひ三百六十月ハ一年の月也と
るりあろり一箇八十の白馬ありらろり一箇八十
まあく馬あり二人のう人あたらん地あぐまり
又一やうまき及うこのまう井乃らつせんま孫
つり十六きん神あんだんあくふ仏法とひろめん
とせりこま太あく神たらむろあまうとて流門と

せめ凡々をうしこなりするまつしをのくうしちりる
所しりるをたぐひううといひりらんらん園みそ
大しやうきをそりけつとん我てうよを小園さり
阿ひいおしやうきをつとせりるしこめくはさ
るりしんまことあおらんまなほさ一六二寸めさ
八十二月とるうすよこせす二分七十二日れ去
月とるうと白石十五ハ上十五日くらあはす十五
下十五日なりとうハ五也えふさいひ日月取るう
そあまきさひ大原此ひ海め孫よ
一 男同云ハしうのつと頭次書りしれくくま
いや 老僧言云一らんおわつさう宗つと宗二
りんり三ろんあうまことあ三歳よくあやしうハ

乃の世あうしとつそしうつとあ五歳よまやう
しつらうと乃の六らんしけあん宗と乃の七歳
にてんたいしうつとれハらんよあんん宗と
頭次ハあしとつとふり以外二宗ありせんあう
しやうししうとれまりあてせて十しうとてあま
とつと也

一 心云さけとつひてこめとくうう甲てあま
すいさのししきつうるわゆる作や 老僧言
いしとつしうらんれんてんまんしやうまう
此頃とれ天よりしんわらうとれ是をえんめい
あとも何其段てんまししやうまう乃涉とれ田
しやも娘人とあ人さけとれくりうしめたりうれ

多本ありあらずと云ふもあらずに入ちやとりふし
ふひ乃との字と云きて一とんし紙のけて茶
とよびるりちやのゆのりうくんと二つろ也あは
色登く一乃十二律と云うす也

一 男心云糸の太さうら若成仏すうと尸を
りうなるゆ包帳や 老僧云糸を中ひさう、あう
そのとあう仁王五十代の方々くくまんじ天皇
此紙と記してんきう大仰えんまや十三ねん十
月二日一ひううれていりてうのけささま
祓ひ一糸うりてうまて味乃トよが川垂きやう
とん糸よあさ九ひん乃一やうと減る川一してひう
記記ひらるる是ふより感佛すと尸は三子んきん

せうひうはゆりくを仏たう一とつまらるとしり
あうゆ一くは

一 男同云うんたれ人乃う一物記ひはや
老僧云昔天らくれめいん圃子世目をとつふ
見うと七さい乃汚糸よりたれ紙ひさよか竹の
一糸を出たり汚門つろくきせり一糸ふあうき
世ぬけとうれぬさちの紙中一正月はわうらふ
あうさ二尺八寸れ本うめんくは日文字をば
里田と云字一うにまは可きて益取るあううらり
少りたり其と記紙ひさの竹八十一うわきてぬ
けたりうれうらびとたぐみてひあまりたり世
志さいまうをあやくせんらり八子七百せん糸此

見つやなりを程みさしとつ小字をけりふまよ
大にまとあくるり正まやくハすと十分行り
て二すむハめんりさこめられたり又日本を
凡るまきとせんき二年二月八日よりつた三橋ハま
へうめりをひて来たりしり連や日日本の人まよ
らぬまん羅國まらん人まよとつたの三橋ハま
ゆりりめれまひ凡るまよとつたりてつたハひ
ろめくはうとまんま十二里うまりまよふ人の
不まとまよとまよがまん乃里うまよまよの
まんう里うまのりさうやう大の里さくまのり
うれ不の人作里うあるり又田まよせりま
まんま日まよまよまよがまん乃だく見まよひ

作あり

一 男の云くそまなれ人のうめ孫ひひや
老僧答云くそまなれ人のうめ孫ひひや
まよとてひくまたり日まよの事ハまよ
まよ不さう乃ひあめまよひてひやまひれいりま
は百回ひやうまのり百はくすしあま孫孫百はま
ねんりてま孫孫百まのりあま孫孫百ハまよま
てま孫孫の事ひひやうまこまひやうとて死まよ
まひまよひくまなれまよまよひ登くまよらひ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよ
一 男の云くまよまよまよまよまよまよまよ
老僧答云まよまよまよまよまよまよまよまよ

孫ふ居あうく〜孫はらんろれこよけし〜ゆうの
四し〜と行く〜子母乃大よ目そ〜居う〜書交
の土丹秋冬乃五きの此ふさも葉木乃おるうれ三
子せういのさいと〜く〜く〜なるもの
りていなりと籠り〜び〜ん〜り〜と
至し孫子み人お〜ま守を帝乃王子とせのたい
孫王と申てうれ孫子十人ありま此八死此とひの
へひ此と孫ち乃人孫ち此と〜のるうれと〜乃
るみ此此とあまなりぬ〜乃日〜一〜波を志やく
たの里う日〜と申て孫子十二人あり孫〜
う〜の〜ひ〜ひ〜し〜ら〜り〜あ〜り
三脚いひやく〜い〜就王と申て孫子十二人あり

〜乃のそく〜た〜び〜と〜やあ〜あ
あむらうおさびひ〜く〜のあま世回らう〜あ〜
〜い〜り〜と〜して孫子九人あり一〜く二き三
〜やう〜世の五きぶ〜い七座う八なん九やく是
なり五らうま日〜うの里う王と申て孫子七十二人
あまゆん〜く〜し〜世は〜海あ〜すあ〜の〜
志乃らま〜きのと〜う〜と〜てあ〜世七十二日
孫〜ありあ〜世孫ふやま家りま〜んらく〜ん
乃ん孫おももまきと〜門〜園去とおさ〜作也
一 男同云みせり〜と〜り〜い〜く〜れい
ま〜り〜る〜ゆ〜い〜や 老僧云び〜〜て〜んち
〜三〜ら〜う〜五〜て〜い〜れ〜と〜び〜日〜と〜り〜み〜し

ありしう大わくわくや、仏法をうり登あり王國
よふさんとたかくか務ふせういしふうりまほひ
まり正月のめちハ、しう漢唐ありたかているり
ゆほり繁いりきかちるりむくろふも四門あり
ゆこふ突るりてそつこもせての川きなるこそ
まり世のせん乃まめち悪人をうちえらふんあり
る川玉ハ、うれ城ありてしるものししうりす
たみくさきさうえせありてよなるもうこま
ちやうさ水へ火とけやきほひたるうろや
ういハ、さう漢おふありあ三日三日乃くさめらハ
んれめふんまりりくさるるあり生たる本正月五
月北らまきハ、うれかせとこりりんちのみやへ

おしよせたるせり、けく里うこかちもまの突い
よきて北乃もあやうふるこりりりのたまりたれ
あすといふお草なり七日七日乃さうめんハ、さう
とくりりりりたふありあ城ありあもらとて
くきまり九月九日のあつひいれうあくむく
さけいさくすいとまほあてくれあなうこまりき
くれもあはまやうけんまりまほりまりとつふ
はうれつくひとけりりりりなるまほひ也其とれ
ハ、たとししとあいありきくりりなるるまほ
城も八人してけりるりあくりりり何こいてんり
さうのあみをくりたるすめさまりこれとみま
とむわりあたりりあこれまほひあり仏法をそく

老僧答のそとく人きくはたしつしきんたん
とあきてんらくへ海りきめつふらりに里うさけ
とてはらうさ八子里を河乃よこり三世は法佛
カ門まりしひて石乃河しとけられ始りし
こしとこきてしや川きうとよじり又せいし
はうやもり我のそつ傍れうらるし
あよしそふらふつれをいせいし
とすなり

一 男の云六地を佛していや又を門く
あくいや 老僧言云六りきりきりし
かゝ作八やもらゆしうのうをんよ六
たれあうしとり終ふ一たいそをうひらきう

とすてあやくしやうあちてびきんらあくとま
ひ終ふなり一たいをびし地を中てあんとん
とまらてあさ乃のくきんはまらひ終ふ也一折を
あやまらんらうとせし由を指てちくまう乃
比をけん可すひ終ふ也一たいはいやう里う地
をとして心はみちてしゆ乃のくりんをやくひ
終ふなり一たいまうくらうとてしゆを
を門て人乃のくをすくひ終ふなり一たいを
めくまきり終てまをあしきし天乃のきん
とまらひ終ふなりしゆは六なりは
ましん地みれ一たいまうなり
一 男の云六地を佛して八乃ゆもむとあ

二月十七日八月十五日 七日とすまきつてひるまき
たぐすこれよりひんたけのうとくも
さうりくは金乃うさうはくんだあより出家おく
聖うしせんをてんをツクあめ依なり

一 男心云てんちくふなふ程なる幽りていや
老僧こころを云目申り西へ三子こころを云ん
乃ん幽わりうれりり一カ里よりをわこころを云
を名とさうあいふとつふりうれをまえて大何
あり聖うさ川とまほくうれとこころを云てん
ちくわの東てんちくふ一カ幽わりを幽とつふ
まり南天竺より七カ幽きうさう幽あひひんあ
えたいあくあやたあく一カやあくひ一カや聖あ

ぞんたゑ幽あまより天らく一カあくは
るひ幽りりおてんちくま三ヶあくわりそうき
幽をあん見あく乃ん幽は一カあくあまより東
てん地く小世のこくわりまあつふ幽りり
こくういそ幽り一カ幽あまより十六の大國と云
まひみ天らくと中いあり

一 男同云六月一日よりあちをくひひあ
るりゆんいや 老僧云六月一日よりんその
ひろあまより沙門へ求の毎年来りさうりふん
まんのあやせまればなを求のさうりあや
まりあのいそれりりり数りちとなつてつ
ひさふらふなりらまはさい聖のあん一カ

ワよまき相りと思きたり

一 男らふていそく加ん不死人とらふらひは
をりうりるぬいや 老僧云志やくそんぬそ
るんてぬわうふりけんしきひて七月十日
に一百三十六地獄のうま乃ぬたよあけられはる
加んふまうーや珠とあうひ形あうきこあくその
あしう羅世門やのそ地こくよせーたまんとて
さけいきりこくそ門とも珠あくさめんうたぬふ
五百人ぬらうんたりに地不勢けけられてたいこ
うとあーらんおぢりせけーぬ終ふ也あくそ門
地いあまよ見不向く其るー死人をうりてとふ
らひ終ふなり加ん乃おとまひまひひまり又せり

まきりくまんそんあやのーぬたまふ一度とく
たるとれ人けんより色取事ーまふれとも仏乃
あうとされぬるまなれまやうにとあうひいた
とんまう門とひくそよのあぬ也ーうふーやう
ぢやあふれまやう一のたあまていふんーをそ
らん加んまきやううーと思きたり

一 男心云ま守のうこをーまひろこよせぬと
中多ッううらゆぬいや 老僧云志やかによ
らひのい入穢の耐汚ちや里ー威終ふうぬ百乃
大弟子の門まりしうりて思んとありー時かせう
乃まうをんぬめとらうーまぬのそあをまりてりし
終終とらうれぬー一まひそあをせぬとーい

一つしお八日りて出る八人―ておんとて一人
ハゆりけりきて八人乃いてお思ひくよぼく
なり先一人をうりさ一丈乃たまよ五川あのを
とさ―たり一人を―ちやう五尺乃麻よ七川あ
の―とさ―たり一人ハ二ちやう乃ゆり―九つ
これゆ―とさ―たり一人を二ちやうふちやくれ
たなふ十三あのを―とさ―ひとまハ三ちやう乃
たふ十七この乃―とさ―たり一人ハ三ちやうに
尺乃たなふ十九これとをとさ―ひとりちや
う乃たかろ―二十ふこの乃―とさ―今一人を十
六ちやう乃たふろ―七十五子乃ゆ―成―たり
かこれとさ―再りひく―とさ―紙行くまでよ

きりまら十六りゆりのたなふのがまらういて
あいそあま―とさ―ひく―とさ―ふえとさ―れゆ
大中―らろ乃たとあひ―ちやう乃たま三ちやう
ちやくれたま三ちやうのぬれあのかくハこび
このひく―とさ―ゆり―とさ―らよび―とさ―
のこつゆ―乃ゆりけよこつと人とのちやとをひ
二ちやう五尺これ二丈のたれ一ちやう五尺ハ
たれハ五人ハうりまここれひけきよちけとさ
らよさちふれうやとひとのく―とさ―ちや―
すいめん十八年二月十日、らの相張をうてし
麻―上まらり玄程よ取ハるん―のむゆ―飛
なり十六ちやう乃たれ―の介里た取ゆて東方

にひらひの南無三世に法弘孫のくく我てうよ仏
徒をうろくつらうら成る人て八代の目里ん孤
のさきとて人とは中一うれうやせぬくうり
とつらひのひらひのひまふめてもふふたり杯をん
ふりまきまれのるうわさうそりさつき死この
うこより二もんめれ日輪ふたううふあたれま
やうとうたらのさうひうん甲うきんよおら
よよりまきとをん後と以下比ききん乃んくまてを
めく巧きことつふまうきりなり又七人のひてたら
を思ひくにくまんをそわもくといひこり
たれ七代乃末七の目輪よふたううふあう
てうれ日門のひひうの國うおちうりけり

うれおらひひうりうり日りひりふとひくうり
う系やとふうれとれをがんもの系なれ八代門も
二月はをうりう八の目里んをのの平せ
一ちやうはやくうき三やく一可なりうて
うれうれとくとくさくひとさうてん見終へ
と二すはさう一海一清ありうれさうよ一すむ
六分のちやうは一神つくわり是とけ八代門
みうとへめされ一誠をおらりれあ門のうや
こめ終よ一つは併勢の外まふこめられたり一こ
きりれ幽日兼乃うやこめ終よ一をふれれく國
まられや一終りこめ終よ一いふきん乃國守佐

八幡入りこめひとつしりふさうり乃時律入りこめ
孫ふひとのこすこり此二の律あよこめ竹ふ一
川をかくと乃たううろりおさまりたり子
もちひうする第六天此ま日うるりしり剛五を
おさめんだめのをうるんよせーなるり又ハ
川のりし流れえうい波を天王のまこなる玉川
くりとりふおり地乃下は町さこよう川まれば
里京北町お切り流まると中ーハうれはくを明こ
ともりさてうれつてよをらんとうハの國波流
はう也ううあいなるさう人ゆけはむきて物ゆけ
張るうす乃りけりしと中ーハ西の町りりそり
まりたりまねまけり此子てうゆはせぬ也さるり

すまるとりり

一 男の云云子太子せういよまうのり流り
やと流産のや 老僧告云云子大をんせういと
ま五百乃中一團とらんらんら我中せんうひとい
つり一五此小團とびまやう乃うくうん國と其外
戒てうとあたまて小せんかやうありうてまう
明をまみてんちくお一可きん九百二十王あり五
百乃中一團入りみまんまうのり一乃の小團入り
百五のりりびまう乃そくさむ團まを一王をさ
まんらんまを七流門あり又そくさんあく乃のり
まそく人せりりてうゆ一王まうま守以上あま
せて一まんせ子二十八まめくいるり

たひまうくまをてんをきくさびるりとのせめて
そのさうりさりの仏孫のんのとて三世に徳佛の
るん孫ふん又とひてまつりひつ一箇のふん
ふくきんと孫のるとも生れれあひひるり
ましてまひしきんまりほくかきさうのてとらふ
ふ儀也太あれまやうきん世のわつれ明もろく
乃龍王の集りらましくまんきの神くすりふえハ
つててんのいひまなまきやうらんまふいさうは
世のほうとさう海にけたらての也おれたるは老たる
さうれふまれけおまてまひけらうさうりあま
よりり字よそさ家うくと書也うこひとさうく
つて仏孫まふふさうし其身をさうくさうすも也

又毎年南の北のさき本ののふま園におくの神
まもおられまさうさうのさうりなきさうまうりよ
て候なり

一 男同云神乃前めまふまのりさうり故のや
老僧言云とまふハまやうふれを身りてまやうふ
不二のまのさみまらるとのるり神おとさうく
おれ一 老僧言云とまふハまやうふれを身りてまやうふ

一 男同云人言のうりやうさうさうさうさうさう
まめいひのりさうりゆさうい 老僧言云とまふハまやうふ
まとてまのさうりあさうさうさうさうさうさう
三まうんさうさうさうさうさうさうさうさうさう
一川よをせんてんまうと機くをさうさうさうさう

井よりくらの二つふはいへやくとるりてきと
そありあり三川ゆはまきうこりてを第六
天よりかこらぬ世川ゆはてんらんやうわうと
威てまほちうふまほ五ゆは佛身とまりてもハ
さうあやうらうととるんゆはまきみしやうやくふ
しきいん川ゆきまうよんこたり三しりとりふこ
ゆける地ときハあやうらうひさうんて
き男よまうひとひてき子よまうひく一世れ
る家流のこは一人よまうふあまこしうなり
しりまういんをハさいれまうゆよまあや世仏よ
かけきまうけてあまびくせういの威たをまうび
まては女よまういともんよのまらひひくけいりく
しやうあつあつるくいなり

一 男の云かくとつふるるる誰人乃く一め

あひハ口 老僧答云それ神樂名地神五代乃始
天せう太神日月をうまいりあまのゆし戸へ引
こもりあひての時國去らう屋をすりまりけり
あひハ大里きまうとつひ一人もうるんとめく
らしてうくらとつふ事とぼくにてつそとの前
うまもせられあれと天せう太神あつあつとあろ
やとのこまひとまあいんこてあつあつひしりん
又天皇子まやういんこふうり入て日月まうよ
門しんてつてにけりんまきま真とれらり目たき
そんのめ神といんくれくるは國の山まといふ

と、いふおのゝれ終ふ迄、一、祢子乃まひり
を三月あるまん乃も、こゝり少く、乃ひく
い、やう、れ、祢、少り、と、ま、す、り、み、ん、乃、か、く、
を、の、こ、ま、み、り、の、女、来、也、八、人、乃、八、段、と、め、を、八、太、
れ、と、く、を、明、こ、も、る、乃、う、い、こ、つ、く、の、者、を
志、や、う、し、れ、ゆ、め、と、ま、れ、儀、り、こ、ひ、や、う、の、
さ、ら、く、乃、乃、天、地、と、う、り、ま、を、と、ん、と、た、
ウ、ら、ん、祈、る、り、明、く、ら、を、の、時、り、そ、ま、り、
一、男、曰、云、尺、八、を、た、れ、人、れ、何、の、ま、ひ、い、や
荒、僧、若、く、教、年、一、り、あり、と、り、を、と、ま、や、く、そ、ん
より、一、子、ね、ん、前、上、こ、う、と、云、人、れ、川、く、り、乃、也
さ、う、と、ま、と、物、み、き、ん、り、九、代、の、あ、ま、ハ、五、り、に、よ

ら、い、り、又、雲、叢、林、を、去、拜、り、少、く、時、を、
さ、し、ん、し、き、一、こ、川、ひ、や、う、て、う、そ、う、て、う、の、五、を、ん
と、い、こ、も、け、く、く、と、ん、し、て、見、ま、こ、ん、甲、乃
志、や、う、い、る、う、く、だ、り、少、く、奴、れ、ハ、ぬ、や、う
ふ、め、の、す、明、い、也、そ、と、り、無、一、乃、乃、と、の、
ま、り、め、う、ほ、う、れ、ん、巻、ま、う、と、い、し、ら、物
あ、く、い、り

一、若、同、云、う、り、日、の、お、う、り、ハ、り、う、な、る、
老、僧、こ、く、色、と、云、う、ら、日、ハ、先、白、月、の、た、く、み、て、い、す
り、こ、ま、ん、月、城、う、め、り、う、こ、う、せ、も、世、い、風、
て、ひ、れ、ま、う、ね、ん、と、ほ、く、を、風、乃、た、り、と、あ、つ、て
わ、う、い、志、や、う、い、ら、と、う、る、り、の、も、く、巻、つ

そは我聞乃老あくいのゆめ乃ほあをもつてうら
わとたかくしていさなり

一 男同あふさも雅人れけりめ終ひいや

老僧告云あふさいしんさあはくこつありす
たさてんちくハあゆらやうーやうまご成ま
終つりいゆとをまゑひらく下と川つて金のく
らとまゑくもてとあうらうしあくと成ま有りう
とまゑれくもてうりて下をわけてう務せと成
まゑ福よく獲あくと終ハ始ひくくあゆめとまゑ
いしんさあはくい銀のとまゑなりひくぬぐあふ
けいさうはのけりとけりひく風うのあふりた
くこなるさきハむしむしやうれとくこーやう

これねありうゆさぬんやもういゆりまゑは
ゆめとあゆらゆめとありたんせり乃あふまゑと書
こなりとるうらふまゑとまゑはあゆらふ川のあ
となりてい

一 男 云 轉世によらつれまゑいまのつりな

ゆめいや 老僧告云まゑとせんれうんあゆら

てんちく乃まやうゆん大いうらう二人まゑまゑ
まゑあゆらたたみなんあふあまゑとるう太席あゆら
だ太し十九さいのゆとまゑまゑ一れひお終ひ
てあゆらせん人とのまゑ終ひてあゆらうりあ
より三糸のあゆらうらまゑ人まゑや終らうまゑ
こり水とくまゑ終ひく三糸のあゆらうらまゑとあゆら

人まよけ竹下を帝ハあやしまよふハ一ヤ一ヤ
ちらくくしさい一ヤ一ヤ一ヤ一ヤ一ヤ一ヤ一ヤ一ヤ
なうけ一物流生れのをみとらるんをそそりせ
けろくして三十直乃及世滿一月おらんこうして
そろく乃まうわうさら雲の橋よ入まうして
人乃くまうとつこまうて程なくさい一ヤ一ヤ一ヤ
初ますて中その色りけり終るけひこていらく
まうにせんちやうたいしとまうくう一くまん
まよふ終人て二人の所まこを流流してきと流
乃まゆせひくき終よのくて一子ねんの後り一
とめたいししはふうめり一くまん一くまん一くまん
子のが一見まひて是と一由川星のくまうして

一やうのくまうとり竹ていらくやそあまたはとせん
と終ひて六十乃大くまん城くまのうり十二
くしと流まふうめ川まう一物くめくま一おゆり
ま終よま終一むやめ太子をやく一はよらひや
あうまれ終ふ太男乃一やくま一たり一まくまん
をんとまう終よれくれちくて太子のせ一しん
まんとあうまれ終ひのく一既十八くまん流
たてう勢乃ひくまびとくうしと流ひくまうり又
いれちるうまうけなれをむまやうまゆあゆ
中一いあり

一 男の云せせんよまのくまうつふいかりの
ららゆ人いや 老僧答云釋迦仏ハまやうせん

仁王う五十六代の御門世の和てん王う乃なるのま
すていあううふいあやいふい里のうんししはう
らんあいのししうりひ三休のたううこのとろん
しそれたうひまりあうまてん平家あたまやう人乃
まうもり入とれあたまをやまうあひたるまう
まうさういよあひまれていせ

一 男同云うささたれ人のうの御ひいや
老僧答云うささ人皇世十五代のかうくあやうむ
てん王う乃御時あやうまき三年まむむの御回
うさあけとりのあんうたて見うりるりそれまうり
か孫あまゆさまうひまけうくまうまらぬい又
あうりさそ人王七代の見くまううまいてんわう

の御ときさうまうりているり

一 男同云うまき福し誰人乃けしめ御ひいや
老僧こくさあて云て門王ん王う乃御時ゆうふと云
そのかたてとていせ

一 男同云三十三おれあやうんまのまきまき人
れくしめ御ひいや 老僧答云仁王六十回たの
のこくまんとゆう流のけさきあいくらん二年
二月十七日あやうくう上人あう十七まひまて
くまのれりりけしめまうひて六月一日り
みだく園乃ふくまおまあられいなる人いま
ふひ人あんあはるあくいかあいのみそまや
也一のしやうくう上人と申まう六十五

の取門くんさんのはまの古子あく内苑町のし
りくまのあんらんのはまより十七さいまで
しせ乃ぬ川しん上人とうえらりのさく乃う上人と
同乃あきてゆきれぬなり

一 男同云いりきたれ人乃不きしそ作也

老僧答云うれいらるんさんのもやあをすねん
たるなり四方乃のりははき相成てさひ其外上
下のつて入のれとあすみちくはりよるひり
ふらんゆくはくくくさなり日本ゆけ仁王回す五
ふい此れけくあやうびてらん日う乃は時天平さ
まゝ七話ん上南乃乃きんやう僧正此まんらん
部取うこりて三日乃いりてさく老られてより

これ明こいりてあこりいあくとさ門てくま
い少んとつるさぬさめんく乃まのたあしいら
にりていなり

一 男同云いしそ推人乃くめあひい

老僧答云そまむもくてんちく乃あしゆさん
乃代乃きんとり小老うはりうやもくさ
目め東うんちとあくさるなり又天ちくらん
わうてうとくまより日本よのこれまハ人
六十代乃かやあんさ此皇乃取さひあまりて
はあひいものをんさた思ひたり

一 男同云又字とにき人乃けしゆの移ひ作也

老僧答云又字いりてしんまうのは十八字は

ふと多入ていあやとせういふひ乃め孫ふまゝに八
可に子乃とんあし太一やうとんあやの取立まを
いゝととるゝあんたんのまゝいりんかけくあし
里いあやとつあ若う川くりいすゝをらんきうう
作取まり筆をまうてんう川くるまり

一 男同云婦一乃あまのつ乃世一乃若来い
老僧若云仁王二十二代乃流門ゆうまやく天王此
淨明一日一乘まゆあや川あたり山たひ一してふ
乃ん雲うすゝまゆけく作へる見はあたりんを
乃うり一子仁王三十一代乃流門ひんごつわう乃
流と流とんくまう四年まあん乃若若れまうけ孫
ひく始山成あゝそめ孫ひてあのがゝ婦一集りハ

いりり若程ま中くうりり下まゝんまゝいゝまゝ
おきりりの中まうりり上る天よりありてい孫
あひい、天地いりりゝんと申の

一 男同云念仏を法理此すりのんゝんと申
てりりるらゆゑうや 老僧若云あまきやうれ
るりれゝんりんわやつまきやううまて作うゝ念仏
ハみゝあゝやうあゝゝやうううなれんわん
のるりゝひあめの人ゝ三ふすまうり一男とひ孫
いゝ一ねんれみゝあゝんゝ一おさまゝまていや
ハ可やうまゝの乃らゝゝカ一まやうはうまゝん
まゝやうと一いゝ

う代時い男まゝうらゝやううまゝゝ一後僧まゝ

をりつる人まで所産いやりりそめふありわひ
ふ中一乃ふをんをりし一いつくまでいひ
とんけさるあいやりれらむ六十余別をりく
あまをそく人共あま程しりさほ信よりあひ中一
事一の今始めやまろこひあれし老僧すされり
しくそりいあんやんうぬ系のおゆ、わりけら
直十九あくうとそりうれまをんをりきりて
たすく人勇取えらる時つふきして生死と
まま建威乃入信ん存以てまを物り一
つ建世させん一そつあふひのひそあせらん事一
もくとし又あんらあもまうとまをくくせんう
あん乃あまやうとえん事一いあ成りくし又たう

はうてととこんてう一そ其えさくとこ一ふらん
とぞ成しし一痛くびまやう成りこうまであや
くそん大師乃涉お一へりおありたかとれとや
せんうくやせんとおのひ年一よりま置出り
上置人樂わん一そ念仏すてあり一う一そん学
文とああけりやう一まうりまりいああま
いけりる人うやわりもれし後男中あう我らし
園やまとの玉の悲まていりやう十二より南於興
福るあやうわん一わりこうけりまうりいりそれ
よてとあおくりこやせば十四九年比君きんた
ひりあひて徳國とめくりいり今ああせ乃一と
くひんせんなれい佛法傳をもくあうとす衆行そ

りしりりらるはくまへしよよひあ一人乃きりハ
まあ一威ともめはく我物をせあ一をせく
ておあわくよりハるりひのふりいもほそせ
てうの一つをもそうよらんすらまハか一あよ
さんまれえんせとけと思つても一あはゆあひる
まりせんあん乃ああ一てき乃落れしをあ守成松
とえん事ああつさ乃ゆああもあらま一と思ひ
あこめくいあひさ清そうさ海のいあ子一なり
中えんもせやうてつこ波そをてすもそあれ衣よ
そのことうをてあり一耐老僧しきれけりハ法師
か若波そくうあんとあ一山名あ乃名波をけん
あんえうこそはけ終ふも福よきんえんハせんた

ひの波そちや登よをきて中一なるその城こきや
あしそくうあんえうに集うすらうりあくはくう
あんえう二人がくちや登とつせんくえうし
る衆もあそとて十町くちりあゆこて二人あうつ
きけまやうりう勢よるりうれえんとうのたと
併勢乃圍あさまれたんえうといひ一人其ちや
やあわりあひ一りあまうりよあしきるら同若
ありとそやうてあこをまいてせんよひ乃まうり
のるり

阿波國文庫





